

リード・ヘイスティングス

ネットフリックス創業者兼会長

ディストラクターの代表として ユーザーと投資家の支持集める

世界190カ国以上で3億人を超す有料会員を持つネットフリックスは、自らもドラマ・映画制作なども行う「世界最大のメディア企業」として知られている。時価総額は約3,600億米ドル（約56兆円）^{*}で、米国に上場する企業で第26位の水準。この巨大企業の礎を築いたのが、同社創業者の1人で現会長のリード・ヘイスティングス氏（65歳）。21世紀のエンターテインメントに革新をもたらした起業家・経営者だ。



ネットフリックスは2025年12月、米ワーナーを買収することで合意した

1960年、米国ボストン生まれのヘイスティングス氏は、スタンフォード大学大学院で人工知能を研究、修士号を取得した。その後1991年にピュア・ソフトウェアを起業し、1997年に売却。この資金を元に同年、ネットフリックスを共同創業した。初期に手掛けたのはDVDの郵送レンタル事業。1999年に定額サービスを開始すると年率50%を超える成長を続け、2002年ナスダックに上場を果たした。

しかし、ここまでの成長は、あくまでも「序章」だ。上場後、2007年に動画のストリーミング配信サービスを始めたのを皮切りに、コンテンツ自社制作、スタジオの内製化、グローバル化など大胆な業態転換に次々と挑戦し、成功。

既存産業を新たなものに置き換えていくディストラクター（破壊者）の代表として、ユーザーと投資家の支持を集めた。

躍進を後押しした 「脱ルール」の企業文化

躍進を後押ししたのが、ヘイスティングス氏が主導・醸成した「脱ルール」の企業文化。「社員の休暇日数は指定しない」「出張旅費と経費の承認は不要」「上司・部下の関係に縛られず、互いの評価を率直に伝え合う」など、同社には多くのユニークな原則がある。目指したのは「自由と責任」。その理由について同氏は「（我々は）組織の効率性よりも柔軟性を重んじているということだ。もし効率性を大事にするならば、製造業のように社内には多くのルールと手順が必要だ。柔軟性と改革を大事にするのならば、社員には自由と責任を与えるのがよい。だからこそネットフリックスは20年の間ずっと変わり続けることができた」と語っている。

2023年、ヘイスティングス氏はCEO（最高経営責任者）を退任、ネットフリックスは現在、コンテンツ責任者であったテッド・サランドス氏と、技術系のグレッグ・ピーターズ氏による共同CEO体制が採られている。革新の遺伝子を受け継ぐ2人の手腕にも注目だ。



2020年、後継者としてテッド・サランドス氏(右)を共同CEOに指名

世界のエンタメ、メディアを革新
ビジネスモデルの「破壊×創造」で

^{*}2026年1月下旬時点、1米ドル=155円で計算。

写真:ロイター/アフロ

Profile リード・ヘイスティングス 1960年、米国ボストン生まれ。1988年スタンフォード大学大学院で人工知能を研究し、修士号取得。レンタルビデオの延滞料金を支払った経験からDVDの郵送レンタルサービスを思いつき、1997年ネットフリックスを創業。1999年以降2023年まで、同社CEOを務めた。

主な参考文献:『NO RULES』(リード・ヘイスティングス、エリン・メイヤー著/土方奈美訳/日経ビジネス人文庫)、日本経済新聞、日経ビジネスほか